

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービス事業として、地域に根ざした事業であることを理念の中にも謳っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々職務に当たる職員は小さなグループになって理念の復唱をするなどしている。</p>	<p>理念を実際の対応にどう反映させるか、管理者が支援の現場で個々の職員を指導、修正して、レベルアップを図りたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に理念の一部をかみ砕いて説明しており、家族には一定の理解を得ていると考えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の人と挨拶を交わしたりする事はある。また、事業所は常に玄関を開放しているので、近隣の人が玄関の椅子に腰をかけて休憩したり、敷地内のスペースで子供が遊んだり、自動販売機で飲み物を買ったりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>現在、特に力を入れて地域との交流、連携を進めている。自治会の定期的な清掃活動に必ず職員が一人、参加している。また、自治会の主催する「ふれあいサロン」に利用者、職員が参加するようにしている。老人会への利用者の入会は断られるという事実があった。</p>	<p>利用者の環境変化に対する適応力の許す範囲で、事業所主体の活動に地域の人々を招くなど、少しずつ実施していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>今のところ、特に取り組みの事実はない。</p>	<p>事業所の多目的ホールを開放するなどして地域の高齢者の寄り合い場所として提供するなどの案も考えられる。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者評価を実施する意義や背景などについては職員の集まる全体会議などの場にて説明し、一定の理解は得ている。また前回の評価については結果を公表し、職員間で共有している。</p>	<p>評価結果をどのように受け取るかは個人間でのばらつきがあり、またそれが業務に活かされるかのフィードバックを集中的に検証する場があまりないため、全体会議などをフルに利用して取り組みたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>評価結果は運営推進会議の中で報告し、その内容を話し合う場は設けている。</p>	<p>第三者の意見を積極的に取り入れ、サービスの質の向上を図りたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>時宜に応じて、市の介護保険グループ、福祉事務所などを訪問したり、地域包括支援センターに挨拶に行ったりしている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を利用している利用者はいるが、特に事業所として、それらを一連の制度に関して学ぶ場を提供はしていないのが事実。</p>	<p>管理者はそのような権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作っていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員はある程度の高齢者虐待に関する認識をもち、また市町から提供される虐待事例の文書などを読む機会を持っているため、虐待防止に日常的に注意を払っていると言える。</p>	<p>高齢者虐待に関する知識についての勉強会などの機会をもちたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>職務内容や日々のケアに関してのみならず、事業の運営に関しても職員の意見を反映させる機会、例えば「提案制度」のようなものを取り入れたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	概ね実践している。	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	運営者は管理者研修、実践者研修など人員配置の許容範囲で出務させている。	更に多くの機会を設けていきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	・西宮市内の他のグループホームとグループホーム連絡会を通して話し合いの場を持つ機会がある。 ・市内の同系列のグループホームとの間で相互訪問したりして交流する機会はある。	交流は管理者や一部の職員に限られているので、個々の職員もネットワーク作りができるような機会を持てるようバックアップしていきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	管理者が個々の職員の面接を行い、これを運営者に報告するという形で心のケアを行なっている。	更に風通しのよい職場作りに取り組みたい。
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	繁忙期に手当てを支給したりして個々の職員の向上心に配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用の具体的説明に至る前に、訪問を重ねて顔を覚えていただくところから始めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の社会的背景を考慮した対応を心がけている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者、家族にとって、当事業所の利用が最良か否かというところから相談にのるようにしている。</p>	<p>ケアマネや地域との連携を更に密にしていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の日取りなどは、ご本人の状況等を考慮して入念に決定している。また、入居後すぐは、不要な声掛けなどは出来るだけ控え、まずは観察に集中する事に専念している。必要時には体験入居なども受入れている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の経験、知恵に敬意を表し、利用者から学びつつ、信頼される馴染みの関係を築き、よきパートナーになるという理念の実践を図っている。</p>	<p>利用者の生活歴、能力に関する職員間の理解の統一、個々の動作に対する対応の仕方などについてさらに議論を交わす機会を多くしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者同様、家族とのよき関係作りにも努力している。上述のように家族への手紙で毎月の報告をしている以外にも、家族の来訪時には出来るだけ時間を割いて家族と面談の場を持ち、利用者支援のための話し合いも行なっている。</p>	
29	<p>利用者との家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族の出来るだけ多くの来訪を促したり、利用者が家族に電話したいときにそのように出来る環境づくりをしたりしている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの飲食店にお供したり、馴染みの理髪店に通うのに付き添いをしたりはしている。</p>	<p>今後もさらに支援の事例を増やしていけるよう努力したい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>あまり介入しすぎず、さりげなく職員が利用者同士の間に入ることで、会話の橋渡しをするように努めている。</p>	<p>個々の利用者が、その共同生活の中で、さらにその人らしさを発揮できるような支援を推進したい。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>関係を断ち切らない努力はしている。実際、職員がその家族の家を訪問したり、家族が来訪されたりする事例がある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1.一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個別ケアを実現するための手段として、時間割を作らず、利用者本人本位の生活スタイルを尊重している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式を利用した生活歴をふくむ出来るだけ詳細なサマリーを家族から入手しており、サービスに活かすことに努めている。</p>	<p>センター方式のシートの精読、理解に関して、職員間の温度差を少なくするよう、現場で相互に議論し合える体制作りに努めたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>全体会議や日々の申し送り、ないし申し送りノートなどを媒体として利用者の現状を把握し、更にそれを共有するように努めている。また、利用者一人ひとりの統一ケア内容については、個別、項目別にまとめ、共有し、適宜更新している。</p>	<p>利用者の当日の状況のみならず、その背景としての、前日や最近の状況までを全員が理解し、共有できるような申し送り、意識改革に努めたい。</p>
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全体会議でのケアカンファレンスや日々の職員間の小さなケアカンファレンスにて個別のケア内容を話し合っている。また家族の意見も随時取り入れ、活用するように努めている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は期間に応じて、また必要性が生じたときは随時見直しを行い、更新の際には家族の意見を聴取し、反映するように努力しているが、期間に応じた見直しが往々にして遅れがちな感はある。</p>	<p>介護計画の期間設定と、その時宜に応じた見直し作業を徹底していく必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録を日々個別につけ、職員間で情報を共有すると共に、介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>できることできないこと、健康状態、利用者の想いなどの経時的変化が簡単に理解し、アセスメントできるよう、もっとシートに記録するようにする。</p>
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>生活全般を個別に支援するグループホームの特色を活かした支援を行なっている。</p>	
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ほぼ月に一度開催しているアクティビティーにボランティア団体を招聘したりしている。また、管轄の消防局により防火訓練を実施し、その場に自治会の方にも参加いただくということがあり、今後の地域ぐるみでの防災活動を図っている。</p>	<p>左記の機関との協働の可能性をも図っていくと同時に、ボランティアの種類などももっと研究した上でよりよい協働を図って行きたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>ターミナル期にあり、家族からの意向で訪問看護を利用していた利用者の支援を行っていた。</p>	<p>今後、口腔ケアの徹底を図るため、歯科衛生士の訪問サービスや、リハビリのための理学療法士の訪問リハビリのサービスを取り入れるなど、検討中である。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターの支援員が事業所の運営推進会議の委員として助言をくださっている。</p>	<p>協働を今後さらに推進していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科医師が来訪し、定期的に診療しており、適宜助言をもらっている。以前からのかかりつけ医を継続して受診している利用者の例もある。</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症サポート医の定期診察に加え、状況の変化に応じて、電話相談を随時行なっている。</p>	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>回診時に定期的に看護師が同行し、状況把握に努めている。</p>	<p>職員に対する医療知識の向上など、よりコミュニケーションを図りたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者の入院時は出来る限り職員が面会に行き、家族、および病院関係者と面談の上、早期退院のための話し合いを持っている。</p>	<p>ホームに早く戻りたいと希望する家族、利用者の意向をより早く、多く実現するため、対応などを引き続き前向きに図っていきたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期の利用者についての指針がある。ホームで対応可能な事柄は極力実施している。</p>	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>緊急時のかかりつけ医や提携医療機関との連携体制は整っているが、出来ないことはまだまだ多い。</p>	<p>人的体制の整備と、個々の職員の対応力の向上を図っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>当事業所の退居にともなう新しい転居先の検討については当事業所でもその支援を積極的に行っている。</p>	
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを損ねないように十分配慮するようなケアを行なっている。</p>	<p>言葉遣い、バリデーションの具体的な方法など、ロールプレイングやトレーニングの実施、徹底を行なっていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの自己決定を尊重し、その個々の生活スタイルで生活できるよう支援している。</p>	<p>質問形式で時間をかけるコミュニケーションのトレーニングを徹底していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>強制はせず、利用者本位に生活できるよう支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎朝、整容したりお化粧をしたり、また馴染みの理髪店に通っている利用者がいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>可能な利用者においては食材を切ったり、盛り付けしたり、また食後の食器洗いや片づけをしたりしている。日課として自らしている方もいる。</p>	<p>メニューに関するリクエストをもっと重視したり、より季節感のある食事を工夫したりしていきたい。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>晩酌を日課としている利用者がいる。また、おやつを自分の好みで自発的に購入し、自分が楽しむのみならず、他の利用者に振舞う方もいる。</p>	<p>もっと自由にお茶やコーヒーを入れたり、勝手にお菓子が食べられたりできるような環境づくりに取り組みたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者個々に排泄間隔の大体の取り決めを行い、排泄の声掛けをするか、トイレ誘導を行っている。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>職員の都合に合わせてことなく、希望する時間に適宜入浴をしていただくか、入浴介助を行なうよう支援している。一日に3回入浴する利用者も経験した。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>強制することなく、利用者一人ひとりの生活スタイルに即した睡眠パターンを守れるよう支援している。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴をよく理解し、楽しみごと、気晴らしの機会を持てるような支援は行なう努力はしているが、これが実際十分に行なわれているとは言いがたい面がある。</p>	<p>出来ることから一つ一つ取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者個人の小遣いは預かり金として事業所が一括管理しており、必要に応じてお渡しして希望に即して使えるような支援をしている。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出については基本的には利用者本人の意思にお任せしており、中には毎日の散歩を日課にしている利用者もいる。</p>	<p>外出したくなった時にリアルタイムで支援が出来るように職員間での相互理解を高めていく。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>アクティビティとしての花見、施設見学などの外出の他、個別にドライブ、コンサート参加、外食などの支援をしているが、数的には限られている。</p>	<p>上記同様、限られた人員の中でも出来るだけやりくりして、特に個別の外出支援をもっと行なっていきたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>常時、利用者が自発的に利用できるように支援している。</p>	
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>決まった面会時間も設けず、また面会拒否もせず、自由に訪問いただけるようにしている。</p>	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>現状、身体拘束の事実はない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>開設当初より、夜間帯を除き鍵をかけないケア、カメラやセンサーによる監視をしないケアを徹底している。</p>	
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>目立たないように五感を働かせながら、利用者の安全に配慮している。具体的には、夜間の巡回、利用者の外出時の気付かれないような付き添いなど。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>非常に限られてはいるが、異食があったり、また調理中の鍋などに触る可能性のある利用者もおられ、物品をなくすなどではなく見守りで注意を行っている。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が起きそうなとき、また実際に起きたときは各職員が「ヒヤリハット/事故報告書」を書き、全体会議で検証し、事故防止に取り組んでいる。また、それ以外にも日々、職員間で小さなカンファレンスを開き、危険防止に取り組んでいる。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>統一マニュアルを掲示している。また、一部の職員から始めて、消防署の行なう救急救命訓練に参加し始めている。</p>	<p>統一マニュアルも定期的な見直し、更新が必要で、またそれを全ての職員が完全理解し、共有する努力が必要である。また、救急救命訓練の2回目、3回目の開催と参加者を募っていく。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害に対する確固とした取組みがなされていないのが実情であるが、ひとまず管轄の消防署、および地域と連携して消防訓練から始めた。</p>	<p>定期的な防災訓練などを地域の当局と連絡を取り合っに行なうと共に、地域の人々との話し合いも何度が持つておく必要があると思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>利用者の自由意志を尊重し、その行動を出来るだけ抑制しないと言う当事業所の理念をよく説明した上で、起こりうるリスクやその対応策を家族とよく話し合う場を設けている。</p>	<p>書面による相互理解の確認など、インフォームドコンセントを拡充していく。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>体調の急変の際にはかかりつけ医にもれなく連絡するような体制をしいている。</p>	<p>前日やそれ以前の状態に関する情報を共有して、異常の早期発見、急変防止に努める。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員が各利用者の薬の内容を理解するように努めており、服薬の支援を行なうと共に、実際に服薬したかの確認まで行なっている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>チェック表に記入し、状態を把握している。また、医師の指示によって服薬コントロールや、また水分補給などの支援を行なっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の口腔ケアの支援を行なうと共に、歯痛などの問題には提携の歯科医の受診を推進している。口腔ケア内容については各利用者の状態に応じて個別にまとめて取り組んでいる。</p>	<p>今後も左記の徹底を図る。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分補給量などを記録に落とし、利用者一人ひとりの状態に応じた支援を行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザの予防接種を実施している。また、他の感染症も職員間で知識を共有し、予防に努めている。</p>	
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>消費期限をしっかりとチェックしている。また、まな板、布巾などは夜間帯に消毒している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>日中はフロアを含め、全て開錠しており、近隣の人も自由に出入りできるようにしている。</p>	
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>観葉植物を置いたり、季節の飾り物、置物をおくなどして、季節感を出すように工夫している。</p>	
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>定席制とせず、思い思いに居場所を見つけていただけのように支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具などを持ち込んでもらうように勧めており、それぞれの居室が、各利用者が居心地良く暮らしていける居場所となっている。</p>	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>職員が空調の管理を行っており、また換気や消臭に注意したりもしている。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリー構造になっている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各利用者の情報収集に努め、自立支援を行っている。</p>	
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇や菜園を作るなどして、利用者が散歩時に楽しめるような工夫は行っている。</p>	

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)